

大東市立歴史民俗資料館 市民学芸員REPORT

第2号

お嫁にきたのが大東市 仕事での経験を活かしてみたい

「わたしは市民学芸員」。お二人目の登場は岡本尚子さん。落ち着きを若々しさがくるるんでいるような、還暦前の三児のお母さんです。

岡本尚子さん

・大東にはいつ頃からお住まいでしたか？

昭和五十一年の秋です。結婚を機に岡山県美作市からきました。湯郷温泉や武蔵の里がよく知られていますが、親戚に紹介されてのお見合い結婚です。義父が鐘紡の大東工場に勤めていたため、主人は大東生まれの大東育ちです。

・大東の印象はいかがでしたか？

大阪は都会で怖いところと思っていたのですが、大東市は違いました。当時は、駅から少し歩けばけっこう田んぼがありましたし、背の高いヒルがあるわけでもない。頭の中で描いていた大阪のこてこてのイメージとはちがいました。田舎の家しか知らなかったので、

最初の家は隣家との距離がせせこましく窮屈でした。

・ということは、結婚式はこちらで？それまでなにかされていたのですか

市民会館にあった「大東殿」です。今はなくなってありません。

わたしは市民学芸員



インタビューに答える岡本尚子さん（栄和町在住）

高校を出てからは四年間ほど岡山県のバス会社でガイドをしておりました。まわりの人からガイドなんてできるの？といわれました。仕事では西日本各地を飛び回っていました。

・当時は花形の仕事だったんですね。じゃあこの近くも通っていたりして？

はい。奈良へ行く時は、必ず阪奈道路を通っていたので憶えています。よく渋滞するんですよ。

当時は、いまのようにバスのなかにカラオケなんて

もちろんありませんし、バスガイドがひたすらしゃべらなくちゃいけないんです。動かないバスがうらめしかったです。景色も変わらないうし、野崎観音やお染・久松のことも今ほどは詳しくない。まさかその近所に居つくなんて思いもよらなかった。(笑)

・右も左もわからない土地へ嫁いでこられて寂しくなかったですか？

お姑さんにあちこち教えてもらっていました。よく行っていたのは住道商店街の「電アパート」でした。また三人の子どもの七五三やお宮参りで野崎観音さん。人、人、人で、じきに疲れてしまつて、お参りするどころじゃなくなる。なんのために行ったんや？(笑) …とにかく大東市に引越してきてからは、あつという間の三十五年間でした。家族全員が生粋の「大東っ子」で、私だけよその人という思いもありました。3頁の最下段に続く

住道駅周辺 ウォーキングラリー

4月24日(日) 14:00
~16:00
定員 50名
費用 無料
集合・出発 住道駅
解散(ゴール) 歴史民俗資料館
4月9日(土)から電話または
来館でお申し込みください

大東の 風景を訪ねて

前の市役所はどこ？
昔の駅はこんな建物？

各地点で市民学芸員が
古い写真を紹介します

ゴールの歴史民俗資料館では
景品をお渡しします

町はどのように、さまがわりしたのでしょうか
スタンプラリーを楽しみながら
町の変化をみにいきましょう



住道駅が
ラリーの
出発点です



大東市立歴史民俗資料館

市民学芸員



わたしのモノ語り

私たちはこのたびの企画展「大東の風景」のうち一ふりがえる大東の風景」の中の一部に関わらせて頂きました。出品物はありふれたものですが、それぞれにとっては、思いの品、手放せない品々です。
他の展示物同様、是非ご覧下さいませよう、よろしくお願い申し上げます。

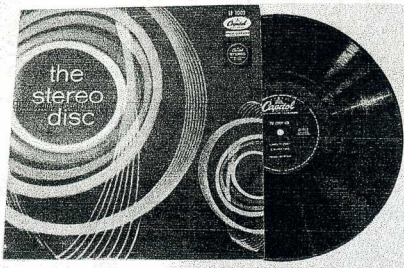
1960年代私の一品 わが部屋に デンチクから ステレオコンポ

為則泰明 (南新田在住)

私が小学生のころ、我が家には当時珍しいデンチク、電気蓄音機がありました。「SP」と呼ばれるレコード盤もあり、なかにはベーターベンの第五交響曲の立派なアルバムもありました。ハンガリヤ舞曲やラベルのボレロ等のエキゾチスムには強く惹かれ

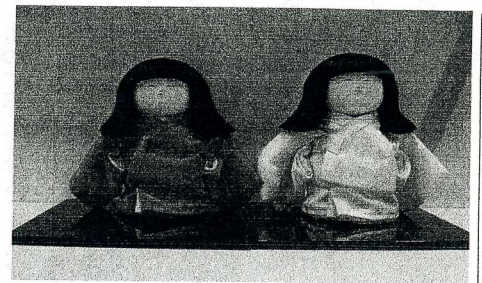
たものです。親が自由にさせてくれたので、幼い兄弟たちと一緒にこれらのレコードをかけては、気に入った曲の盤にクレヨンで渦巻き模様を付けて目印としたりしていました。ラベルを読むことが難しかったからです。盤を回しながらクレヨンをあてがって中のほうへずらしていくと綺麗な渦巻き模様ができ、面白がってやっていました。ピックアップの針も竹製のものがたくさん残っていました。

音楽が双方向から聞こえる、初期のステレオレコード



私の自信作 夢中で作った たちこ立児人形

橋本 醇子 (北条在住)



中学生になった頃にはその電蓄は故障して音がなくなっていました。ボーイスカウトの先輩の高校生が友人を連れてきて修理し、レコードを持ち寄って楽しんでいました。その頃初めて買ったもらったレコードが「ブルーカナリヤ」と云う曲でした。歌い手が誰だったか、「雪村いづみ」ではなかったように思います。高校生の頃には自分の机の引き出しの中に、取り外したプレイ

ヤーユニットを組み込んで悦に入ったりしていました。たぶん兄弟たちには不評だったでしょう。

その頃弟が買ってきたラベルの「亡き王女のためのパヴァーヌ」に深い印象を受けた覚えがあります。

昭和四十年頃FM本放送が始まって間もなく、東芝製の「ロンドン」(MS-40)というステレオコンポが我が家に来てきました。今も私の机の横に座を占めています。

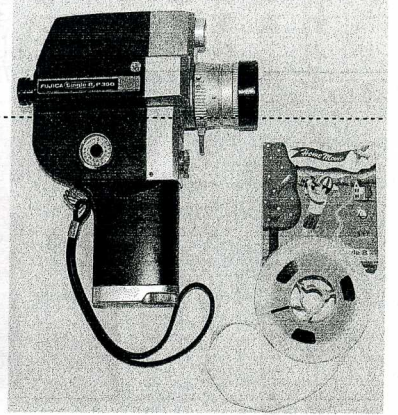
私が作ったたちこ立児人形。創作京人形教室へ行って人形に着物を縫って着せられるかと思ひ、習いに行きました。三等身の人形、使う材料、工程の複雑さに戸惑いながら夢中で作った、課題作の三作目の人形です。人形は先生の指導のままに、着物はいろいろ工夫をして縫いました。その着物を着せて始めて出来上がった人形を見た時は、これと見とれていたと思います。

ます。これにはステレオのステレオレコードが付属しています。大切にあってあります。音源が左右に移動する様子にとっても感動しましたが、今ではもっぱら手軽に取り扱えるCDやMDで音楽を聴いています。

長男誕生で8ミリ購入 親ばか物語

上野 繁 (水野在住)

初めて買った「フジカシングルエイト」



1970年(昭和45年)に開催した大阪万博は、77万回が参加して、また万博史上初めての黒字で大成功を収めました。その翌年の1971年

2月14日のバレンタインデーの日に我が家の長男が誕生しました。1971年の世界の大きな出来事は「スミソニアン体制」で、円は16・88%切り上げられ、1ドル360円から308円となり、財界は大騒ぎとなりました。翌年政界では「三角大福」の睨み合いが続きました。それでも海外旅行者が年間数百万人を突破しています。

この頃国内ではアンノン族と呼ばれる若い女性の旅行者が大幅に増加しました。女性の服装もミニからパンタロンへ移行しました。

1971年の日本レコード大賞は尾崎紀世彦の「また逢う日まで」。日清のカップヌードルが発売され、ミスタードーナツの1号店がダイエー箕面店に開店し、日本マクドナルド1号店が銀座に開店して、外食産業が本格的にスタートしました。日本経済の発展に伴い環境が悪化し、東京や大阪で「光化学スモック」が発生し、ひどい日は連

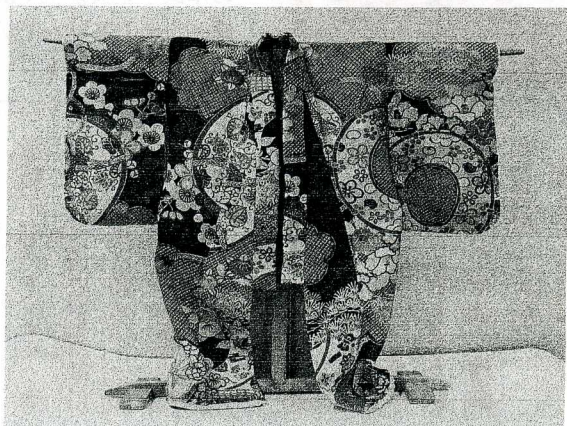
動場で遊べなくなりました。

大東市では「市民会館の完成」「市制15周年式典」「市民憲章の制定」「市の木：さんごじゅ。市の花：菊」が決まりました。

そんな頃の我が家での長男誕生で良い字画の名前をつけようと、数種類の名前を考えました。子供の名前には親の価値観が大きく影響するようです。世知辛い世の中ですから、周りの人に優しく思いやりのある人間に育つように「仁宏：よしひろ」と命名しました。息子が伝い歩きを始めるのと8ミリカメラと映写機を買いました。家庭用のフィルムの長さは1本で3分間です。それでは短すぎるので幾本も繋いで編集しました。それを上映して家族で楽しんでいました。

母との思い出 ミニチュアの着物

母の長じゅばんから数えて3代目
黒川喜和子 (三箇在住)



若い頃の母の長じゅばんから数えて、三度生まれ変わっている、ミニチュアの着物

戦争直後、物資も不足で、私にさせてやりたない晴れ着がなかったの、若い頃の母が自分で育てた蚕の、まゆのくず玉から作った自分の長じゅばんをほろぎ、一針一針、晴れ着に仕立て直して着せたよ、と聞いています。生地も数十年たち薄くなって、もう仕立て

直しが無理なので、良い箇所を選んで、友達にミニチュアの着物を作ってもらいました。傷んだり、着れなくなった着物は、細くさいて、さき織りで帯に仕立て最後まで大事に使いました。私と母の思い出の品です。

「私は市民学芸員」
岡本尚子さん…
1頁からつづく

今ではもうどっぶり身も心も大東にハマッています(笑)。
最後に市民学芸員としての思いのようなのがあればお聞かせください。

人と接することは好きですし、バスガイド時代に培った経験を活かしながら、地域の歴史を伝えられたらと思います。特に、人とのつながりやコミュニティは大事にしていきたいと考えております。
今後ともよろしくお願ひします。
どこまでお役にたてるかわかりませんが、私なりに出来ることを探っていきたいです。
・本日はありがとうございました。
(聞き手 大西京子)

市民学芸員

わたしのモノ語り

気にいていた 25年前のワープロ 13年前の携帯電話



水永八十生
(平野屋在住)

携帯電話(1998年3月製造 DOCCOMO P 2006)

日本で初めて持ち運べる電話が登場したのが1985年。自動車電話を車外でも使えるようにしたもので、重さは3キログラムもありました。ショルダーバッグのように肩に掛けて持ち歩きました。知人が使っていました、便利さはともかく大きさと重さが印象に残っています。1987年にハンディタイプの携帯電話機、1993年には「第二世代携帯電話」と言われる

時代へ入り通話料金等も安くなり求めやすくなりました。当機種はそんな折り、社会人になった我が家の子どもが仕事のために買い求めたもので、我が家に初めて登場したものです。しかし、この携帯には1997年から始まった短い字数の「ショートメール」機能は付いていました。まだカメラ機能はなく、インターネットと接続もできませんでした。



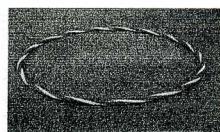
最初に買ったワープロ(1986年製造 カシオHW900FJS)

1978年に日本で初めてお目見えしたワード

プロセッサは、重さが180キログラム、価格は630万円でした。ワープロの略称で呼ばれているワードプロセッサが一般に普及し始めたのは1985年頃からです。プリンタが内蔵され、乾電池を電源にすれば持ち運べ、価格も10万円をきりました。文章を作り印刷するだけでなく簡単な表の作成や計算もできました。しかし、液晶画面が小さく、わずかに数行の文章しか表示できませんでした。そんな中で、86年に買い求めた当機種は、低価格でありながら表示行数が5行ありフロッピーディスクも使えるので気に入りました。でもすぐに大きな液晶画面で機能の優れた機種が現れたので新機種に買い換えました。ワープロ自体も2000年代に入るとパソコンに取ってかわられ、姿を消してしまいました。

フラフープ 今もダイエット器具として 8ミリシングル撮影機 かつては運動会の主役

小寺良弘 (寝屋川市在住)



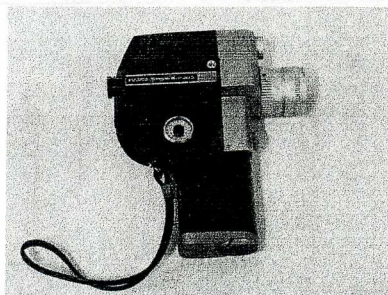
1958年ヒット商品フラフープ

フラフープ

1958年(昭和33年)アメリカで流行し、同年10月日本でも発売。爆発的に売れる大ヒットになり、日本中にフラフープ旋風を巻き起こす。しかし激しい動きに子供が腸捻転になったとか、夢中になって交通事故に出遭ったとかで、一部の県で教育上の禁止勧告が出て、このブームは発売以来僅か40日ほどで鎮静化してしま

う。
展示のフラフープは、このブームから約十数年後に、小学校の運動会で使用したもの。

現在フラフープは、ダイエットに効果あり



8ミリシングル撮影機

とされ、シニア世代になった当時の子供たちの間で、今もフラフラ回りの続けているそうだ。

8ミリシングル撮影機「私にも写せます」扇風景のコマージュで一躍有名になった。

セミプロ級でないと思われないと書いていた映画撮影が、可憐な女性でも写せる撮影機が登場し、ビデオ撮影機が出るまで、運動会の主役を務めていた。「マガジン・ボン」と呼んだフィルムの生産が中止され、扇風景も議員を退役し、すべてが過去のこととなった。

市民学芸員

わたしのモノ語り

ビックリマンシール



ビックリマンシール
一袋三十円でチョコレ
ト菓子の中にビックリマ
ンのシールが入っている
物でした。毎日、三個ず

オモチャは 子の成長とともに

ファミリーコンピュータ
ビックリマンシール
シルバニアのモグラハウス

岡本尚子（栄和町在住）

始めのうちは、ファミ
リーコンピュータは、眼
によくなさそうだったの
で、買ってやらなかった
のですが、子どもが友達
の家へ毎日のように行っ
ては、ファミリーコンピ
ュータをさせてもらって
いたので、ついに買ってしま
いました。その後、眼は
悪くなるし、カセット代
も高く金額がはるしで、

ファミリー コンピュータ

道路には、ビックリマ
ンシールの外袋がゴミに
なって落ちていました。

つ買っていたのを憶えて
います。
シールには「悪魔」と
「天使」と「お守り」の
三種類がありました。子
どもたちにとっては、そ
ろってキブキブの「天使」
がお目当てです。チョコ
レート菓子の方も、結構
おいしかったです。最後
の方では、さすがにお菓
子に飽きて私が食べさせ
られていました。



モグラハウス

今思つと高いおもちゃだっ
たなあという感想です。

娘が三年生か四年生の
時に、ただ一つ親にねだっ
たのがこのシルバニアの
モグラハウス（右の写真）
でした。最初、モグラの
子どもを買いました。家
族をつくるために、お母
さんが八百円位していた
ので、子どものもぐらか
ら集めていったようです。
五、六年生になると布
の切れ端で大きな縫い目
ですが、服などをぬって
着せ替えたりして楽しん
でいたようです。

「僕、大東市と同一年やねん」



自宅の裏庭をお気に入りの三輪車で
暴走中に撮影された一枚。半世紀前
の写真です。最近の館長の口癖。
「僕、大東市と同一年やねん。いっ
しょ、いっしょ」と嬉しそうに、い
たずらっぽく主張する顔を眺めなが
ら（この写真とおんなじや！変わっ
てへん！）と心のなかでつつこんで
いました。館長、失言をお許しくだ
さい。（匿名希望）

写真は 大東市立歴史民俗資料館館長
笠井敏光さんです

50年来の「ピノテル」 乱曲（乱読）

いまだにその癖が

西本重利（三箇在住）

私は2010年3月
24日、ビルボードライ
ブ大阪に『日野皓正クイ
ンテット』のライブを聴
きにいらっていた。いつで
もそうだが彼のライブに
行くときすぐハッピーに
なる。シャープなトラン
ペットが素晴らしい。
彼が新宿（東京）のピッ

トイン？で演奏してい
たときに偶然に聴いた
のが最初である。「ピ
ノテル」ブームとして
マスコミにさわがれる
前、1968年だった
と思う。その頃一生懸
命聞いたものは、ルイ・
アームストロング（あ
だなのサッチモは唇が
トランペットを吹きす
ぎてガマクチの様になっ
てしまったからだった
という）、なべさだ、
鈴木章治とリズムエー
ス、ベニーグッドマン、
サム・テイラーなど。
シャンソンでは、イブ・
モンタン、シャルル・
アスナブルなど。イ
ブ・モンタンは映画俳
優としても一流である、
彼の映画は八割方見て
いる。
歌謡曲では、ちあき
なおみ、西田佐知子。
あのころは乱読なら
ぬ乱曲？でした。
今もその癖がなおっ
ていないようだ。

